

教会の納骨堂“聖徒の墓”には

小田中栄太郎兄	小田中みち子姉	小田中たみ子姉
藤永祐吉兄	丸山友緒兄	宮原弥十治兄
宮原たま姉	若林光義兄	若林照代姉
渡辺数代姉	藤野喜作兄	藤野千よ姉
佐藤六郎兄	川畑喜平次兄	川畑まつ姉
大石峯弥兄	原田むら姉	

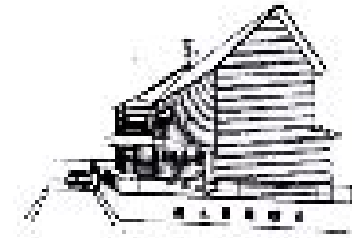
の兄姉が葬られています。思い出しましょう。また教会生活を全うされ、別の場祖に葬られている兄姉をも記念しましょう。

### <今週の聖書から>

今朝の個所は、先週と同じく信仰上の議論についての個所です。聖書が記された時代は、こんなふうと考えられていました。人は汚れることがある。そしてこの汚れというものは、確率的にやってくるのではなく、行いや生い立ちによって、その人にもたらされるというものです。このようにいますと、今もこの世の中でも十分理解できることのようにです。今も昔も“そこには何か理由がある”と思いたくなるのです。弟子たちが、生まれながらの盲人に出会って“弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」”とイエス様に聞いている箇所があります(ヨハネ9:2)。何か神秘的な魔力のような悪いものから身を守らなければ、ますます汚れた状態に陥ってしまう、“占いブーム”が示しているのはそのことでしょうか。7:18に“あなたがたも、そんなに鈍いのか。すべて、外から人の中にはいって来るものは、人を汚し得ないことが、わからないのか”ときよさの宣言が力強くなされていることに感謝しましょう。ですから、境遇とか生い立ちとかがどのようなものであれ、人は信仰によって聖とされるのです。科学的に考えましょう。精進料理は人を汚れから守りません。ある種の病気にかかっている場合には、肉を避けなければなりません。高慢、愚痴を人の心に外から入れることはできません。環境を見て、心のうちで作り出す物なのです(22)。もっと積極的に、周りの状況は、高慢を誘い出すようなものであっても、嘆きを導くようなものであっても“けがしうるものではない(7:15)”のです。汚れたものを造り出さない礼拝を守りましょう。そのような礼拝が多くの人を導くのです。

# 週報

2009年 11月 1日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)